

25th Anniversary Special Concert

25周年記念特別演奏会



及川光悦 指揮

Mitsuyoshi Oikawa Conductor

Program

スッペ作曲：《軽騎兵》序曲

SUPPE: LEICHTE KAVALLERIE OVERTURE

ベートーヴェン作曲：ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15

BEETHOVEN: PIANO CONCERTO NO.1 IN C MAJOR, op.15

サン＝サーンス作曲：ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61

SAINT-SAENS: VIOLIN CONCERTO NO.3 IN B MINOR, op.61

ラフマニノフ作曲：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

RACHMANINOV: PIANO CONCERTO No.2 IN C MINOR, op.18

2012年 **10月26日** **金** 開演18:30
(開場18:00)

東京芸術劇場大ホール(池袋西口) 東京都豊島区西池袋1丁目8-1
Tel. 03-5391-2111(代)

6:30 p.m. FRIDAY, OCTOBER 26, 2012, AT TOKYO METROPOLITAN THEATRE

全席指定 S: ¥6,000 A: ¥5,000 B: ¥4,000

ピアノ Piano



ダニエル・クーヤヴェツ
Daniel Kujavec

ヴァイオリン Violin



デシスラヴァ・チョラコヴァ
Dessislava Tcholakova

ピアノ Piano



ボディン・スタルチュェヴィッチ
Bodin Starčević

演奏：モーツァルト・ヴィルトゥオーゾ祝祭管弦楽団
Mozart Virtuoso Festival Orchestra

チケット申し込み 日本音楽文化交流協会 TEL/FAX 03-3442-2325 東京芸術劇場ボックスオフィス TEL 03-5391-3010

主催：国際親善交流特別演奏会実行委員会 日本音楽文化交流協会 TEL/FAX 03-3442-2325

後援：外務省・文化庁・厚生労働省・国際交流基金・スペイン大使館・セルバンテス文化センター東京・ブルガリア共和国大使館・セルビア共和国大使館・テレビ朝日・TOKYO FM

特別協賛：meiji 株式会社 明治・富士ゼロックス株式会社・みずほ証券

協賛：日本興産損保・三菱電機株式会社・協和発酵キリン株式会社・株式会社東芝 協力：サッポロビール株式会社・日本コカ・コーラ株式会社・メルシャン株式会社

※出演者・曲目等が変更される場合がありますのであらかじめご承知おき下さい。※障害者、養護施設、母子家庭、高齢者の方々を御招待致します。

及川光悦 指揮 Mitsuyoshi Oikawa Conductor

1949年、北海道に生まれる。5歳よりピアノを学び、10歳の時、テレビ出演を機会に音楽家を志す。1967年、東京音楽大学器楽科、桐朋学園指揮教室入学。1975年8月、フランス・ニース国立音楽院主催国際指揮講習会を受け好評を博す。1975年10月、研究科在学中に推薦されパリ留学。エコール・ノルマル音楽院にてピエール・デルボー氏に師事、スコラ・カントルム音楽院指揮科・ピアノ科入学。1976年、ザルツブルグ・モーツァルト音楽院主催の国際指揮講習会を受けオトマール・スイトナー氏に師事、大いに才能を認められる。1977年帰国、故岩城宏之氏に認められ札幌交響楽団において研鑽、数多くの演奏会に出演する。1978年、小澤征爾氏に師事。同年「札幌市芸術文化振興基金第1号」を受けアメリカ留学。小澤征爾氏のもとで研鑽を積む。1982年、「芸術家在外研修員」として文化庁によりミュンヘンへ派遣される。受入れ先であるクーベリックのバイエルン放送交響楽団、テレビダッケのミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、サバリッシュのバイエルン国立歌劇場管弦楽団にて各氏に師事、伝統的なドイツ音楽を吸収する。又ベルリン・フィル、ミラノスカラ座、パリオペラ座、バイロイト音楽祭、ベローナ音楽祭、ザルツブルグ音楽祭のリハーサル・本番・レコーディングに立ち会い研鑽を積む。1983年8月帰国、ただちに東響でデビュー、都響、札幌、京響、新星日響、群響、神奈川フィルで共演、放送・レコーディングで活躍。1986年7月、日中文化交流の一端として中国から招待され、中国電影楽団、上海楽団と共演、交響組曲「東京」～「こもりうた・外山雄三作曲」の海外初演をまた熱烈な歓迎を受ける。帰国後、日本テレビ「11・PM」、FM東京「世界の音楽をあなたに」出演、中国音楽界を紹介する。

1987年9月・10月、前年に引き続き中国より招待され、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで中国電影楽団、上海電影楽団と共演して絶賛を博し、両楽団より「常任客演指揮者」の称号を贈られ両国の文化交流に大きな役割を果たす。帰国後、FM東京「音楽の森」出演。1988年9月、中国電影楽団、上海電影楽団日中平和友好締結10周年記念・常任客演指揮者就任記念として、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもと「文化使節」として公演し好評を博す。FM東京「モーニングジャーナル」・FMジャパン「Jウェーブキャットフィッシュ」出演。1990年6月、チェコスロバキア（ズリーン）マルチヌーフィルハーモニー管弦楽団にてヨーロッパ楽壇デビュー、11月、中国（北京）中国電影楽団にて故園田高弘氏と演奏会開催。12月、ソ連「モスクワ放送交響楽団」、ウクライナ国立フィルハーモニーオーケストラ（キエフ）、ヤロスラブリフィルハーモニーオーケストラにて演奏会開催。1992年9月、中国（北京）・中国電影楽団にて日中交正常化20周年記念特別演奏会を開催。10月、日本政府（外務省）・国際交流基金・ポーランド政府文化芸術省の援助のもとでポーランド

カトビツェ国立交響楽団と演奏会開催。

1993年3月、現在世界で屈指のヴィルトゥオーゾグループである「ロシア・ナショナル管弦楽団」にてロシアピアノ界の巨匠であるニコライ・ベトロフ氏と共演、ウリヤノフスク国立交響楽団と演奏会開催好評を博し日本・ロシアの文化交流に尽力。12月、ハンガリー文化教育省の後援のもとでフランツ・リスト音楽院大ホールにてサント・ステファン交響楽団と共演。1994年10月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで前年に引き続きハンガリー・サント・ステファン交響楽団と共演。ルーマニア文化省の後援のもとでヨーロッパの中でも長い伝統を誇る名門オーケストラ「ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー管弦楽団」と共演し、日本・ハンガリー・ルーマニアの文化交流、両国音楽家間の親善に大きく寄与。

1996年2月、ハンガリー・ドナウシンフォニックオーケストラと共演。1997年2月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとでハンガリー・ソルノクシンフォニックオーケストラ、3月、ロシア名門オーケストラである「モスクワ・フィルハーモニー交響楽団」と共演し好評を博す。10月、名門オーケストラである「ブルガリア国立ソフィア交響楽団」と共演。帰国後テレビ朝日「徹子の部屋」に出演。1998年4月、ポーランド・アルトゥール・ルーベンシュタイン・フィルハーモニックオーケストラと共演。1999年10月日本、ブルガリア文化月間10周年記念・国交回復40周年記念公演に招聘され「文化使節」として名門オーケストラである「ブルガリア国立放送交響楽団」と共演。2000年、「文化庁舞台芸術創作奨励賞選考委員」就任。2001年5月、名門オーケストラである「サンクトペテルブルグ交響楽団」（旧レニングラード交響楽団）と共演。2002年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団、ルーマニア「コンスタンツァ交響楽団・ガラツ交響楽団」と共演し大成功を収める。2002年10月、日本・ブルガリア文化月間に招聘され、「文化使節」としてブルガリア国立ソフィア交響楽団にてヴァイオリニストの天満敦子女史と共演。2004年4月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演、大成功を収め「常任客演指揮者」に就任。2005年5月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。2006年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。

2009年11月、ブルガリア文化の発展と普及への功績に対して、ブルガリア共和国文化省より「名誉表彰状」と「名誉章」を授与される。

2010年10月、ポーランド・トルン交響楽団と共演、ベルギー（ブリュッセル）にてトルン交響楽団と共演。

2011年10月、ポーランド（ピゴドシチ）ボメラニアン・パデレフスキー国立交響楽団と共演。ベルギー（ブリュッセル）にてポーランドEU議長国就任記念コンサートに招聘されポーランド・ボメラニアン・パデレフスキー国立交響楽団と共演。

ダニエル・クーヤヴェツ ピアノ Daniel Kujavec

1980年、スペイン北部サンタンデル生まれ。世界の名門、国立モスクワ音楽院で習得した豊かな表現力と確かな演奏技術をもつピアニスト。12才よりピアノを始める。2001年、ヘスス・デ・モナステリオ音楽高校を最優秀の成績で卒業。ピアノ演奏をマリア・ホセ・ガルシア、ルイス・アンヘル・マルティネスの各氏に師事。同年、マルセリーノ・ポティン財団の奨学金を受け、国立モスクワ音楽院へ留学。タチヤナ・ナザレフスカヤ、アレクサンドル・ファメンコの各氏に師事。在学中よりスペインのサンタンデル、ヤネス、トララヴェガ、サンティアゴ・デル・マルの各地でリサイタルを行い、好評を博す。

2008年、国立モスクワ音楽院を優秀な成績で卒業。同年秋、第14回及川音楽事務所新人オーディションにて優秀新人賞を受賞。

現在、東京を拠点に演奏活動を行っている。「母国スペインの色彩豊かな文化を、ピアノという楽器を通して広く人々に紹介する」ことをモットーとしている。力強くダイナミック、そして情熱的でありながらも繊細さを兼ね備えるその演奏は、スペインという国がもつ独自の奥深さをダイレクトに伝え、聴衆の心をゆさぶる。

2010年春にはデビュー CD「スペインの香り」をリリース。ソロ演奏の他、作曲、文化イベントへの出演等、精力的に音楽活動を行っている。

オフィシャルサイト：<http://danielkujavec.com>

デシスラヴァ・チョラコヴァ ヴァイオリン Dessimislava Tcholakova

デシスラヴァ・チョラコヴァは、生まれ故郷の町、バザルジックの「リスト・ボテフ芸術学校」でヴァイオリンの手ほどきを受けた。彼女の最初の師は、母親のイラ・チョラコヴァであった。彼女の最初の成果は、1985年、1986年、1987年の、「ネチャルスカシメオノヴァ」コンクール、「スヴェトスラフ・オベレテノフ」コンクールでの受賞であり、ロヴェチ、バザルジック、プロヴディフなどの町におけるフェスティバルへの参加、またブルガリア国立テレビでの放送、また、バザルジック交響楽団との共演であった。

1992年、チョラコヴァはプロヴディフ音楽高等学校に入学、アナリア・スタレヴァの教室で学んだ。1993年、彼女は、ソフィアの、第1回「L. ピブコフ青少年全国コンクール」にて優勝、1994年に、スイスのハビブ・カヤレ教授が教えるヴァイオリン・アカデミーで学ぶための奨学金を得た。在学中に、イタリアの「シッタ デイ ストレサ」国際コンクール優勝、北朝鮮のピョンヤン・フェスティバル優勝、ナポリのカンポ・ヴィスヴィオ・フェスティバル特別賞受賞などを果たした。また、ソリストとして、カヤレ・アカデミー・オーケストラ、ピョンヤン交響楽団、チューリッヒのズルヒャー・アンサンブル、カラカスの、ベネズエラ・オーケストラ・シンフォニカ、ハンブルク・ク

ラシク・フィルハーモニーなどで演奏した。

卒業後は、前述のハビブ・カヤレ教授の公式アシスタントを務めた。ジュネーブ国立ラジオやベルガモ、ローザンヌのフェスティバルでは何度も演奏している。

2004年には、クラウディオ・アバド指揮の国際青少年オーケストラのメンバーとして、「マーラー少年団オーケストラ」フェスティバルで演奏した。

2004年から2006年は、「シンフォニエッタ・ドウ・ローザンヌ」および「オーケストラ・スタビレ・ディ・ベルガモ」のメンバーとして活動した。

2006年と2007年に、ミラノの「ラ・ヴェルディ・オーケストラ」と仕事をし、スカラ座やレヅジョ・エミリア、ミラノ大講堂その他で演奏。

2011年に国際交流基金のご招待で日本で東日本大震災の絆イベントにおいて演奏。同年東京工業大学主催のArt At Tokyo Techフェスティバルにも参加している。

2011年にソフィアの「P. ヴラディゲロフ国立音楽アカデミー」のストイカ・ミラノヴァ教授のヴァイオリン教室ならびに、アンゲル・スタンコフ室内音楽教室で学び、修士号を取得し、現在は国内外で活躍している。

ボディン・スタルチェヴィッチ ピアノ Bodin Starčević

1980年、旧ユーゴスラヴィアのベオグラード生まれ。6歳の時に、ベオグラードにあるモクラニャツ音楽学校でピアノを始め、初等、中等教育を受ける。

1998年にベオグラード音楽大学に入学し、2003年に卒業。ネヴェナ・ポボヴィッチ氏に師事。

2003年に、フランスのパリに渡り、スコラ・カントルム音楽院で、オイゲン・インジック氏に師事。2006年には、Diplome Supérieureを最高名誉で、2007年にはDiplome de virtuositeを取得。

就学中は、ミシェル・ダルベルト、アルド・テッコロニー、ヴェラ・ゴルナスタイエヴァ、セルジオ・ベルティカローリ、エマニュエル・クラソフスキーほか多くの世界的著名なピアノ演奏家らによるマスタークラスに参加。

2008年と2010年には、ニューヨークでの国際鍵盤協会フェスティバルで、奨学金とともに受賞。

現在は、モスクワ・ピョートル・チャイコフスキー音楽院のナタリア・トゥルリー氏のもとで博士候補。

8歳時に、セルビア国営放送で初めて公の前で演奏披露。就学中、数多くの国際ピアノ演奏会に参加。セルビア（ニシュ国際演奏会）、イタリア（ストレーザ市）、フランス（ニコライ・ルビンシテイン、パリ市）で優勝を飾る。

セルビアをはじめ、旧ユーゴスラヴィアでの主要コンサートホールで演奏。フランス、イスラエル、ロシアでは、ソリスト、チャンパー奏者としても参加。

セルビアの主要楽団であるラジオ・テレビジョン・オーケストラ、チャンパーオーケストラ「セントジョージ」、ニシュ・フィルハーモニー・オーケストラとともに演奏。

2006年から2010年まで、ベオグラードのモクラニャツ音楽学校で、フルタイムの講師として教壇に立つ。